



有家中だよりNo.3

令和6年 6月17日
南島原市立有家中学校
校長 本 多 洋 二

市中総体球技・武道大会終わる！！

去る6月9日・10日の両日、令和6年度市中総体・球技・武道大会が開催されました。有中生徒の皆は、県大会出場を目指し、それぞれの競技で、精一杯頑張っていました。当日は、悔し涙を流した生徒、うれし涙を流した生徒等、たくさんのドラマがありました。結果は次のとおりです。



<球技・武道大会>

◎団体戦

○軟式野球	優勝(県大会出場)
○ソフトテニス男子	予選敗退
○ソフトテニス女子	予選敗退
○バスケットボール女子	予選敗退
○卓球(男女)	予選敗退
○剣道女子	1回戦惜敗

(男子は1チームのため県大会出場)

◎個人戦

○ソフトテニス男子	3回戦惜敗
・田中、原田ペア	・中村、土橋ペア
○ソフトテニス女子	3回戦惜敗
・山田、松本ペア	・本多、中村ペア
○剣道男子	田中渉 準優勝(県大会出場)
	森崎駿 第3位

LINEトラブルについて

今、コミュニケーションツールとして爆発的に普及している無料電話アプリ LINE(ライン)。便利に利用されている LINE ですが、便利な反面、「LINE トラブル、LINE いじめ」も多発しています。ここでは、多発している LINE トラブルについて紹介します。

(右上へ )

1、既読機能による仲間外し

➡メッセージを読んだら「既読」の表示が出るが、返信が遅れると、友達だったらすぐに返信するのが当たり前なのにと、仲間から外された。

2、意図の誤解からのいじめ

「映画見に行こうよ」という誘いに、「何で来るの？」と返信。交通手段を確認するつもりのメッセージだったが、「何であんたが来るのか」というメッセージと受け取られ、仲間外れにされた。服のセンスを褒めようと思い、「服のセンス良くない？」と送信したつもりが、「？」を付け忘れたために誤解され、いじめにあった。

3、閉ざされた空間によるいじめ

LINE は閉ざされた空間のため、正論が全て通るとは限らない。腹が立つと思ったら、正論を言った相手をみんなで潰してしまう。

気に入らない子を外した LINE グループをつくり、みんなでその子の悪口を言って、実際の人間関係でも孤立させる。

LINE はグループトーク機能を通して複数メンバーと同時にやり取りが可能ですので、学校での会話が自宅まで持ち込める利点があります。しかし、反面、顔が見えない状態でやり取りをしますので、上の1、2のように誤解や行き違いが起きる可能性もあります。学校を離れ、家庭に戻ったとしても、同じ状態が続いてしまうのです。

子どもを LINE いじめや LINE トラブルから守るためには、大人が LINE の利便性と問題点を十分に理解した上で子どもたちに教育し、使用させなければなりません。便利なものも使い方を誤ると凶器にもなります。

好奇心旺盛でありながら、判断力に乏しい中学生だからこそ、大人が、情報モラルについては一層力を入れていかなければなりません。

活躍！生徒会役員

去る 5 月 31 日（金）令和 6 年度生徒総会を開催しました。各学級から、色々な意見が出て、それに対して生徒会役員が答弁をしました。小さな意見が集まって大きな渦となり、組織全体を変えていくという点で、大切な会です。生徒たちは、2 時間弱、真剣に取り組んでいました。



<意見を述べる生徒>



<答弁する生徒会役員>

7月の主な行事予定

1 日（火）～7 日（日）

○有家っ子の心を見つめる教育週間

1 日（火） 校長講話（1 校時）
民生委員さんとの懇談会

3 日（水） 道徳授業参観
学年・学級 PTA

4 日（木） 生徒集会

6 日（土）PTA 学級対抗ミニバレー大会

18 日（木） 大掃除

19 日（金） 県中総体激励会
終業式

ブレイクコーナー

自分の考えや人の受け売りです。気軽にお読みください。

「鈍 感 力」

直木賞作家である渡辺淳一さんのエッセーに「鈍感力」というものがあります。この「鈍感力」について私の考えたことを述べてみたいと思います。

風邪や嘔吐、下痢やインフルエンザなど、時期を問わず流行する場合がありますが、全員が罹患するわけではありません。免疫力が高ければ罹らないですみます。

心も同じで、「耐性」や「免疫力」が高まれば、少々のことであってもストレスを感じることなく、楽しい毎日を過ごすことができます。この「心の耐性」や「心の免疫力」を高めるものが「鈍感力」ではないでしょうか。どうやってこの「鈍感力」を身に付けさせるかが問題です。雨の強い日に、制服を濡らし、靴の中にも雨水が入りながら、登下校することは、本当に気持ち悪いことです。親としては、車で送ってやりたいと思う気持ちになります。しかしながら、心地よい状態にばかり身を置かせていても、耐性は育ちません。

社会生活の中では、保護者の皆さんもご存知のとおり、心地よい状態でない場合もあるのが現実です。学校生活の中では、集団生活をしている以上、様々なトラブルが発生します。けんかもあるし、嫌なこともあります。傷つけたり、傷ついたりしながら、子どもは大きくなっていきます。この体験は、必要なことですし、トラブルの解決過程が将来のための重要な学習の場になります。こういうときに大切なことは、まず子どもの話をじっくり聞いてあげることと親が過敏に反応しないことです。よく聞いてあげた上で、「そう嫌だったね」と気持ちを理解してあげ、最後は、「まあ、そういうこともある」という感じで、大騒ぎしないことです。もちろんそのままにしておけないケースもあります。

つまり、子どもに安心感をもたせるとともに、少々ことは大丈夫という大らかさを身に付けさせることが、いい意味での「鈍感力」を育てることになると考えています。

様々な体験が、経験となり、心の免疫力を高めることになります。無菌状態にすることは、かえって免疫力を低下させることになりますから、子どもが乗り越えられる程のハードルは必要だと思っています。乗り越えられないときは、乗り越えられる程度までハードルを下げてやるのが大切で、大人がすべて解決してしまったり、トラブル発生を全部取り除いたりすることは、望ましくありません。（もちろん例外はあります。） 有家中生には、「心の免疫力」の高い、たくましい生徒になってほしいと思っています。